

# 2014年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 最終報告書



記入日 2014年11月25日

<b>実践団体名</b>		西予市立皆田小学校	
<b>連絡先</b>		担当 二宮 隆三 0894-62-0551	
<b>プランタイトル</b>		ジオと向き合った防災教育	
		<b>番号*</b>	<b>詳細</b>
<b>1 プランの対象者</b>	2.3.8.9.10.17	本校児童、教職員、保護者、地域住民、防災関係者	
<b>2 対象災害種別</b>	1.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南海トラフ地震を想定した避難訓練・避難所設営</li> <li>・豪雨による浸水を想定した対応</li> </ul>	
<b>3 プランの目的</b>	1.4.5.6.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四国西予ジオパーク認定を契機に、地質や地形に着目した防災教育を推進する。</li> </ul>	
<b>4 協力・連携先</b>	2.3.4	下宇和地域自主防災会 皆田小学校PTA 西予市役所危機管理課、ジオパーク推進室	
<b>5 プログラムの種類</b>	2.4.5.11.13.16	起震車体験 水害想定避難訓練 避難所設営 炊き出し体験 劇や身体表現での発表	
<b>参考先進事例</b>	<b>活動年度</b>	2013年度	<b>団体名</b> 糸魚川市立根知小学校
	<b>参考内容</b>	・ジオパークの自然から学ぶ防災	

※ 赤枠は別紙「記入上の留意点」の各項目から選択し、記入してください。

<b>地域特性に応じたアレンジ・工夫点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南海トラフ地震を念頭においた防災教育</li> <li>・学校、自主防災会、PTAが合同で行う活動</li> </ul>
<b>実施スケジュール内容・成果*</b>	<p>4月：チャレンジプラン年間活動計画立案 危機管理課・ジオパーク推進室との連絡会</p> <p>5月：防災ひろば 地震を想定した避難訓練 起震車体験 水害対応マニュアル検討・作成 平成26年度防災マニュアル検討・作成 教職員研修（危機管理対応）</p> <p>6月：防災ひろば 水害対応避難訓練 土嚢づくり 水害ハザードマップ作り 出前講座（防災教育） 防災ジオ学習（高学年）</p> <p>7月：PTA研修（救命救急講習） 教職員研修（応急措置法）</p> <p>8月：教職員研修（ジオと防災 中川委員訪問） 防災安全点検</p> <p>9月：第1回地域防災訓練打合せ</p> <p>10月：ジオ学習（低・中学年） 第2回地域防災訓練打合せ</p>

## 2014年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体)

## 最終報告書



	<p>防災ジオ学習 6年生 放射線対応避難訓練 四国西予ジオパーク巡り 6年生</p> <p>1 1月：地域防災訓練（地震） 防災教育参観日 ・ 防災教育授業公開、避難所設営、引き取り訓練 放射線学習4～6年生（講師 愛媛大学 増田先生） 学習発表会（ジオから学ぶ防災） 今年度の活動の反省とまとめ</p> <p>1 2月：避難訓練（火災）</p>
<p><b>全体の反省・感想・課題</b></p>	<p>○ 防災教育チャレンジプラン入門枠での実践を通して、児童、教職員の防災への意識は少しずつ高まってきているように思う。特に、南海トラフ地震で想定されている震度7を起震車で体験したことにより、初期の避難行動を迅速に行うことが自分の生命を守ることに繋がることが児童は実感できた。</p> <p>○ ジオの特性から、本校区では大雨が降ると浸水や土砂災害が予想されている。そこで、危機管理課の協力を得て、避難準備情報、避難勧告、避難指示と段階を追った水害対応の避難訓練を初めて実施することができた。土嚢作りや水深50cmの中での荷物の移動などの体験活動を通して、災害から暮らしを守る消防団員への感謝の心や、災害には早期の備えや対応が必要であることを学ぶこともできた。</p> <p>○ 地域の自主防災会、学校、PTAが合同で行った地域をあげての避難訓練では、児童が避難所の受付係をしたり、地区別の避難者が分かる掲示物を作成したりするなど、災害時にも自分たちにもできる仕事があることを理解することができた。また、避難所設営や地域住民や保護者と非常食の試食をするなど、防災に備えようとする意識は、地域住民も着実に高まってきている。</p> <p>○ 浸水については、数十年の間被害でていないため住民の危機意識は低調である。また、校区が津波の心配がない標高200mに位置していることから、南海トラフ地震に対する危機感も海岸部と比べると低いままである。今後は、津波が来なくとも大きな被害が出た、阪神淡路大震災から防災・減災を学ぶ必要がある。</p> <p>○ 今後は、ジオの特性から盛んにおこなわれてブドウ栽培にも着目し、自然災害がもたらした恵みについても学習を深めていきたい。</p>
<p><b>今後の継続予定</b></p>	<p>入門枠での一年間の取組を生かして、風光明媚なふるさとのよさと共に、その豊かな自然が大災害も引き起こすことを学んできた。今後は、その素地を生かし、長期的な展望をもって災害への適応能力を高める防災教育を推進していきたい。</p>

※ 写真の添付など、枠内に収まらないときは裏面自由記述欄を使用してください。

# 2014 年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 最終報告書



## 主な活動紹介

### 1 水害想定防災ひろば

- (1) 日時 平成26年6月30日(月) 2校時 9:10 ~ 9:55
- (2) ねらい ○ 大雨や洪水の避難準備情報等で、被害に遭わないように適切な避難行動がとれるようにする。  
○ きまりを守り、安全に避難する態度と能力を養う。
- (3) 内容 授業中に西予市が避難準備情報発令を想定して行う。  
警報 → 避難準備情報 → 避難勧告情報 → 避難指示
- (4) 留意点 ・ 大雨が降ると校舎が50cm浸水すると西予市では予測していることを児童に知らせておく。  
・ 防災ひろばまでに、浸水位置が分かるように標示しておく。(1階)



① 水害に備え、縦割り班で土嚢づくり



② 暮らしを守る消防団に感謝しながら浸水が予想される50cmまで積み上げ



③ 避難勧告で1階の机・椅子の移動



④ 水位50cmの中での移動は大変な作業  
早めの避難準備が大切

### (5) 成果

- 浸水予測位置の標示があるので、どんなものが浸かってしまうのかがすぐに分かった。2階に運び上げればよいものが子どもたちでも判断できた。
- 校区の地形や地質の特性を考えた避難訓練ができた。

### (6) 課題

- どんなものから2階に運び上げるか、事前に順位を決めておくとよかった
- 水害の備えに対する地域への啓発が必要である。

# 2014年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 最終報告書



## 2 地震想定防災ひろば

- (1) 日時 平成26年11月9日(日) 10:00 ~ 13:30
- (2) ねらい
- 災害発生時には、教員や地域の大人の指示に従うとともに、自らも安全な行動がとれるようにする。
  - 防災への意識を高め、大地震などの予期せぬ災害が発生した時は、周囲の人々と助け合うことの大切さを理解する。
- (3) 内容
- ・ 午前10時に大地震が発生したとの想定で、地域をあげて避難訓練を実施する。児童は、避難所となっている体育館で受付係を行う。
  - ・ 児童が主体となって避難所設営を行ったり、地域住民や保護者と一緒に非常食を試食したりして、避難所で必要なルールについて考える。
  - ・ 防災教育に視点をあてた授業を公開し、親子で災害への備えについて考える。
- (4) 留意点
- ・ 避難所にあると便利なものが開発されていることを知らせ、その他にあると便利なものを自分たちで考えさせる



① 避難所の受付を担当する児童



② 避難所設営活動



③ 非常食試食で避難所生活を体験



④ 段ボール製簡易ベッドの強度調べ

## (5) 成果

- 学校、自主防災会、PTAが合同で行うことにより、災害発生時の役割分担について考える契機になった。
- 災害時にも子どもたちにできる仕事があり、避難者の一人として協力しようとする意欲をもつことができた。

## (6) 課題

- 継続して地域への啓発活動を行い、より多くの人に参加できるようにしたい。

## 2014年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 最終報告書 記入上の留意点



最終報告書の作成にあたり、赤枠の項目について、以下を参照し該当番号を記入し、具体名称等を詳細欄に記入をお願いします。

「その他」を選択した場合は、詳細欄に具体的内容を記入してください。

### 1. プランの対象者について (複数選択可)

項目		項目		項目	
1	幼児・保育園児・幼稚園児	8	教職員・保育士等	15	高齢者
2	小学生(低学年)	9	保護者・PTA	16	海外
3	小学生(高学年)	10	地域住民	17	防災関係者
4	中学生	11	社会人・一般	18	全ての人々
5	高校生	12	女性	19	その他 ( )
6	大学生	13	障がい者		
7	外国人留学生	14	養護学校児童生徒		

### 2. 対象災害種別について

項目		項目	
1	地震	5	不審者・犯罪被害
2	津波	6	火災
3	水害	7	災害全般
4	火山噴火	8	その他 ( )

### 3. プランの目的について

項目		項目	
1	遊び・楽しみながらの防災	6	防災に関する知識を深める
2	防災に役立つ資料・材料づくり	7	技術を身につける
3	災害に強い地域をつくる	8	防災意識を高める
4	災害を想定した訓練	9	災害対応能力の育成
5	災害を疑似体験	10	その他 ( )

### 4. 協力連携先

項目		項目	
1	学校・教育関係	6	企業・産業関連の組合等
2	同窓会組織	7	ボランティア団体・NPO法人・NGO等
3	保護者・PTAの組織	8	職業、職能団体
4	地域組織	9	学術組織、学会等
5	国・地方公共団体等	10	その他 ( )

### 5. プログラムの種類について (複数選択可)

項目		項目		項目	
1	イベント・行事	7	学校内クラブ活動	13	体験学習
2	講習会・学習会・ワークショップ	8	その他学校内での時間	14	読書・絵本・読み聞かせ
3	講演会・シンポジウム	9	校外学習・移動教室	15	演劇
4	総合的な学習の時間	10	家庭学習	16	避難・防災訓練
5	教科学習	11	出前授業	17	その他 ( )
6	学級活動	12	研究		